宮崎駿さんがいっぱい!!

Vol.0









ルパン・ユニヲン番外篇



はじめに… opening Adress

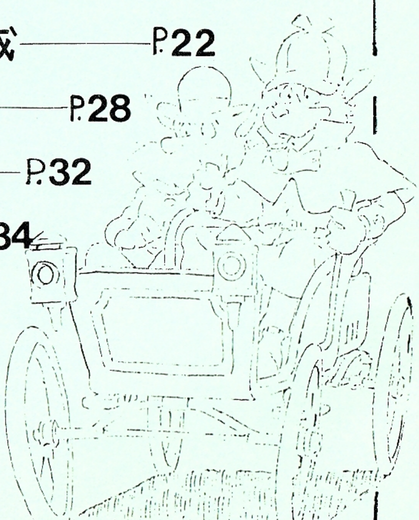
楽しく豊かな漫画映画を精魂こめて作り続けられる宮崎駿さん。
今や、その名はアニメーション業界内のみならず、ファンの間にもあまねく響き渡り、高い評価と支持で不動の地位を確立されました。

ユニヲン豆本PARTⅡは、そうした宮崎さんの創作活動の足跡をほんの少しでも辿りたいという思いで企画されました。
—とりあえず、手持ちの資料で構成しようということで、聊か"資料集"的色彩の濃いものとなりました。

誠に拙き汗顔の出来栄えではありますが、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さらんことを….

— 編集人一同 —

••目次••




宮崎駿さん
の
スケッチ帳

パンダ・コパンダ

& パンダ・コパンダ～雨ふりサーカスの巻～

PANDA・KOPANDA

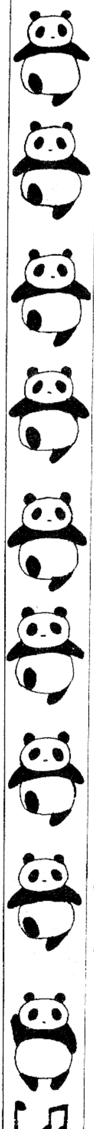
★原案，脚本，場面設定

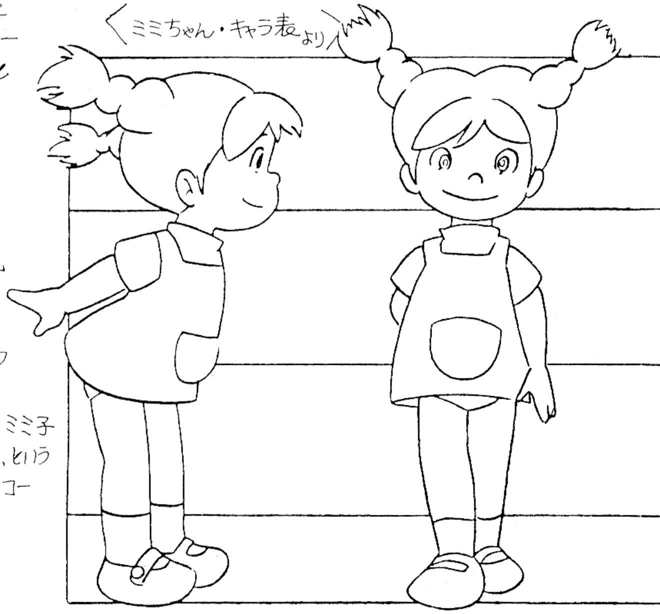
（昭和47年12月 公開）
（昭和48年3月 〃 ）

四大巨匠、夢の作品

「パンダ・コパンダ」「パンダ・コパンダ～雨ふりサーカスの巻～」は、宮崎さんを始め、大塚さん、高畑さん、小田部さんと、今となってはまるで夢の様なスタッフの手によって作られた素晴らしい漫画映画です。
公開当時こそ、話題になりませんでしたが、アニメーションが映画の一ジャンルとして確立した現在、その質の高さが話題になり"宮崎アニメ"を語るには欠かせない作品の一つなのです。

それから、もう一つこの「パンコパ」には有名な曰(いわく)が付いています。そう、つまり「長くつ下のピッピ」をアニメ化しようとした四人のスタッフは、それを実現しえずに終ってしまい、ピッピのイメージが、このミミ子となってこの作品に登場した、というあの話です。（ピッピは、次のコーナーにありますので、そちらともども見てね。）







●あ、それから、STORYは、載せませんよ。ボードとあなたのたくましい想像力が頼りです。



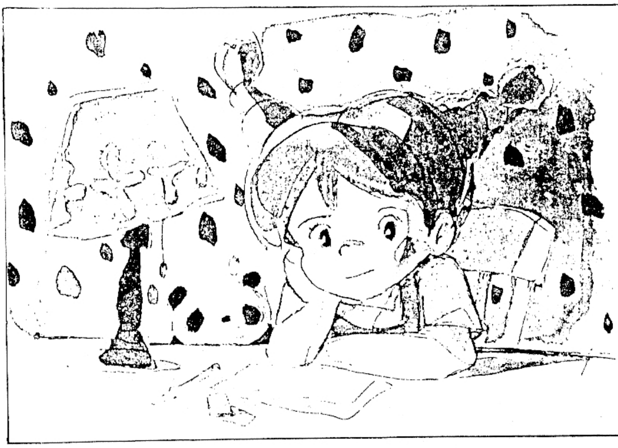
ミミ子は活発で快活

―― 本作品のヒロイン

ミミちゃん

▶ミミ子（声：杉山佳寿子）

"ピッピのイメージ"と書きましたが実際は外見的特徴を含めて微妙に違います。ミミちゃんの方が身近に感じられるし、日本人て感じが（当然とはいえ、）するのです。





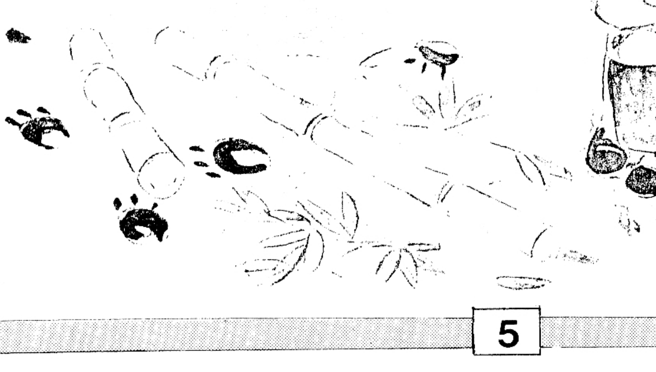
<イメージボード>

● 小学校に通うかたわら、主婦業をいとなむパンちゃんのお母さん！　パパンダ親子が来るまでは、おばあちゃんと2人暮しでした。（おばあちゃんは法事で長崎に…）
天心爛漫、両親がいなくても寂しさに負けない強く明るく元気な子です。

ミミちゃんの家のあたりは、見事なタケヤブ。
お使いして帰ってくると、竹が食い散らかされていて、不思議な足跡が…

―― 料理もバツグン！
炊事、洗濯、何でもござれ。
およそできない事は何もないのかと思いきや、そこはまだ小さな女の子、パパンダさんに甘える一面も。
―しかし、こんな女のコがお嫁サンになってくれたら言うことなし！





成長すれば、きっと美人でしょうしネっ

どぉーも パパンダです



▼パパンダ

（声：熊倉 一雄）

● 御存知、パパンダ一家の家長、気は優しくて力持ち。ちょっとズレたところも魅力のパパです。

独特のユーモアの持ち主で、思わずほのぼのとしてしまいます。

又、某カイシャ（＝動物園）に勤務、給料日にはおみやげを買ってきてくれる本当に、優しいパパ。

＝パパンダ語録＝

「パパがママになるのは大変だけど、お父さんがパパになるのはカンタンです！」

「喜ばしきときの逆立ち、これまた喜ばしきもの」

―しかし、何と言っても極めつけはこれだっっっ!!

特に 竹ヤブが いい!!

〈すべてキャラ表〉





ミミちゃんとパパとパンちゃんの住む家は北秋津にありますが、昔、宮崎さんがあの辺に住んでいらしたとか。―でもって「砂漠の民」のペンネームも"秋津三郎"

コパンダ★パンちゃん

▶パン
(声：太田淑子)

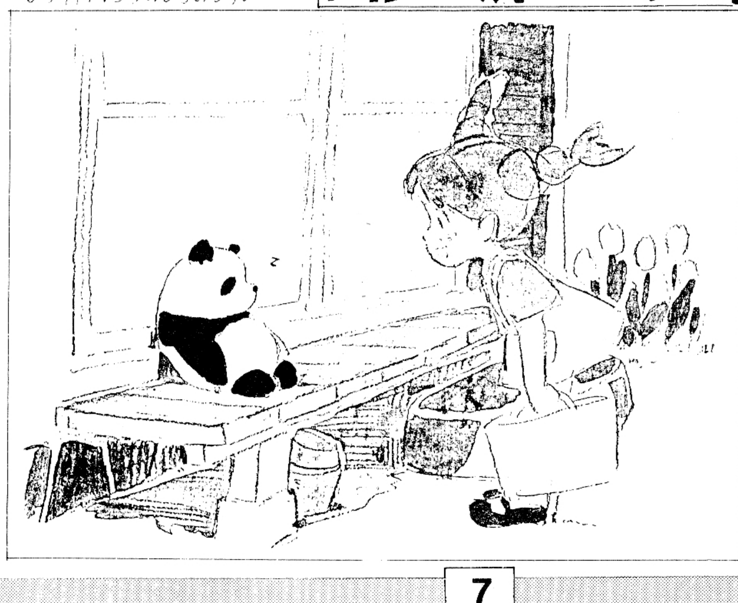
ペンペンやだ

●パパンダの息子パン。「ペンペンやだ。」この名ゼリフに、女性ファンは上映会の度に「カワイ〜イ！」と、黄色い声を張りあげます。
ぬいぐるみのよーなその姿は、確かに「カワイイ♥」の一言ですが、やはりそこは親子猛犬をもかとうしないSUPER-ROWERを発揮します。
とはいえ、普段はミミ子に「ママ！」と甘えるカワイイパンちゃんなのです。



メインエベント玉のりパンダ!!

こんな出し物なら、サーカスは"大入り満員"まちがいなしです。

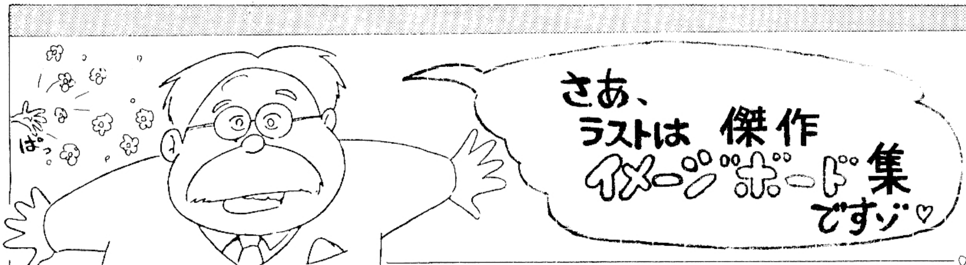


パンちゃんとミミ子の

First Contact.

縁側でうたたねのパン。本当に、これでは'ぬいぐるみ'にまちがわれるのも無理はありませんね。

〈両方イメージボード〉
(上：雨ふり，下：パンコパ)

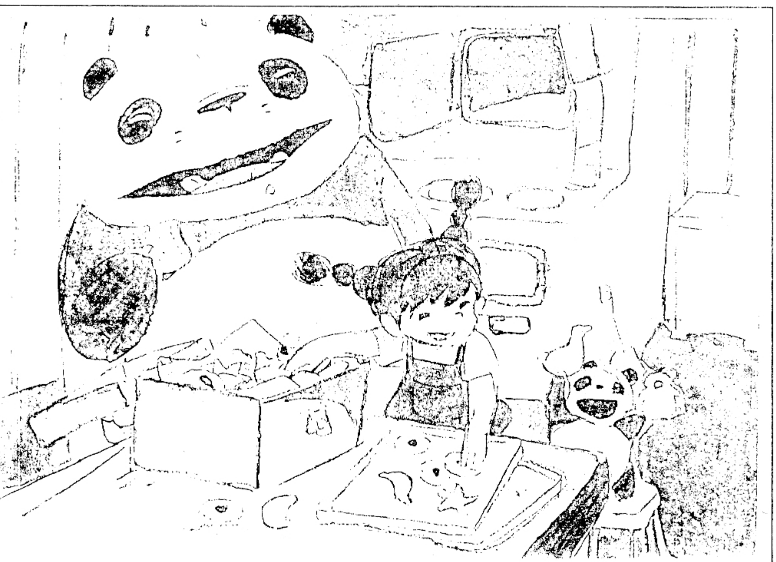


「パンダ・コパンダ」に出演した御存知！動物園の園長さん



鏡モチを、洗っているわけじゃありません。
——しかし似てるなぁ…トラちゃんもパンちゃんもあまりの広さに大変そう…

〈2枚とも"雨ふり"より〉



ところで、「パンコパ」には、ルパンと次元が友情出演してるんですよね。動物園に帰還したパパとパンを取材に来た記者とカメラマンとして、群衆に混っていましたっけ。（ちょうど、旧ルパンの第18話のような格好してたなぁ。）そのおかえしに、ミミちゃんも、「カリ城」に出演してくれていましたね。



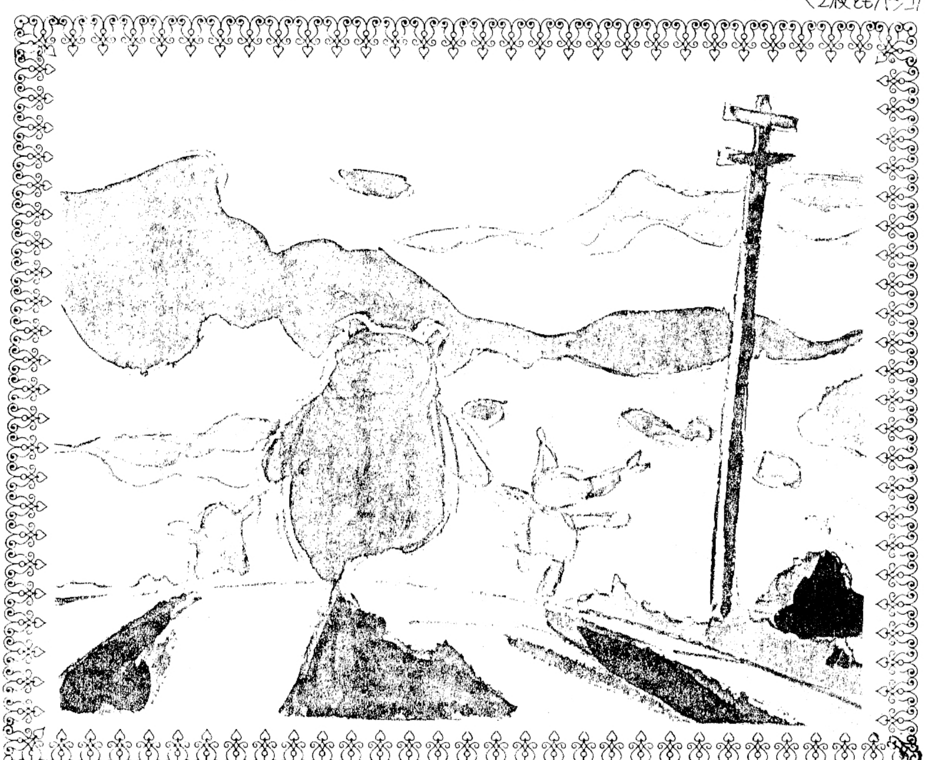
Question:
左の絵の中に、キャラが何人いるでしょう??

―

しかし、つまみ食いするパパンダの口が何とも言えません!



〈2枚ともパンコパ〉



―そして 夕焼けの中を
3人は 家路につく・・・

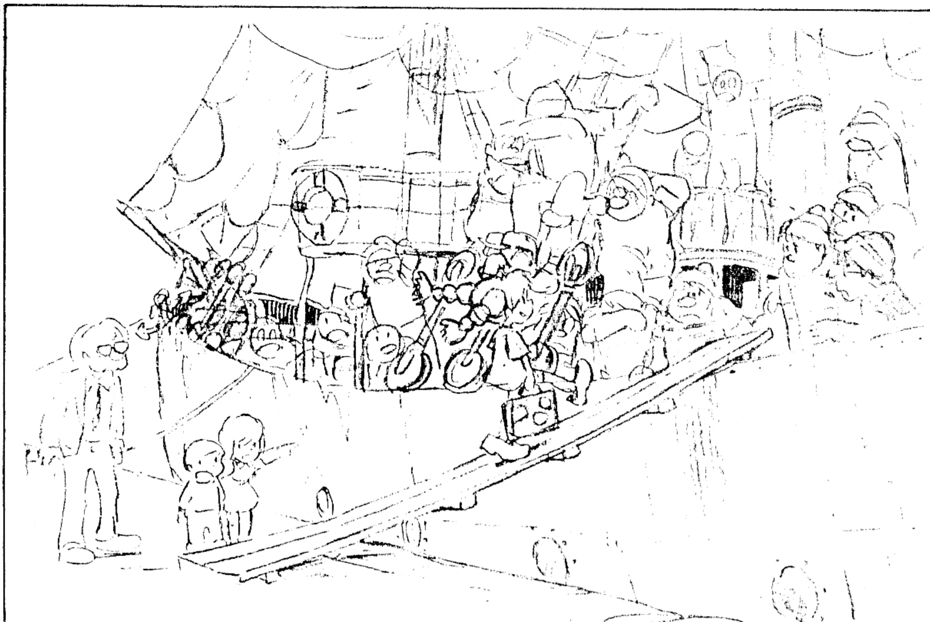
こんな 素敵なラストシーンなんです♡

―おしまい―

長くつ下のピッピ
—Pippi・Långstrump—

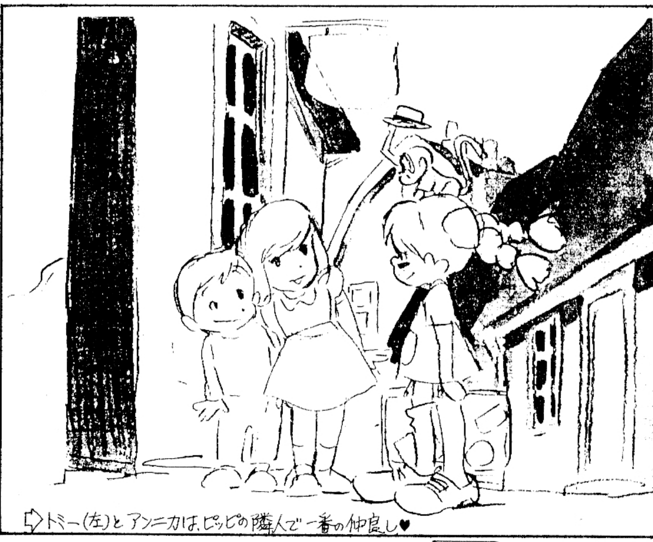
▶▶アストリッド＝リンドグレーン原作
（昭和46年企画・幻と消えた作品）

●はじめに● このコーナーのキャプションと文章はボードと原作に忠実に従っての、コーナー担当者の書きおろしであることをお断りします。



⇨後向きに降りてくるピッピ。（原作とは少々違ったシーンになっていますね。）ピッピを指さしているのはアンニカ、隣はトミー。（姉弟のようです。）メガネの男の人は…誰でしょう？

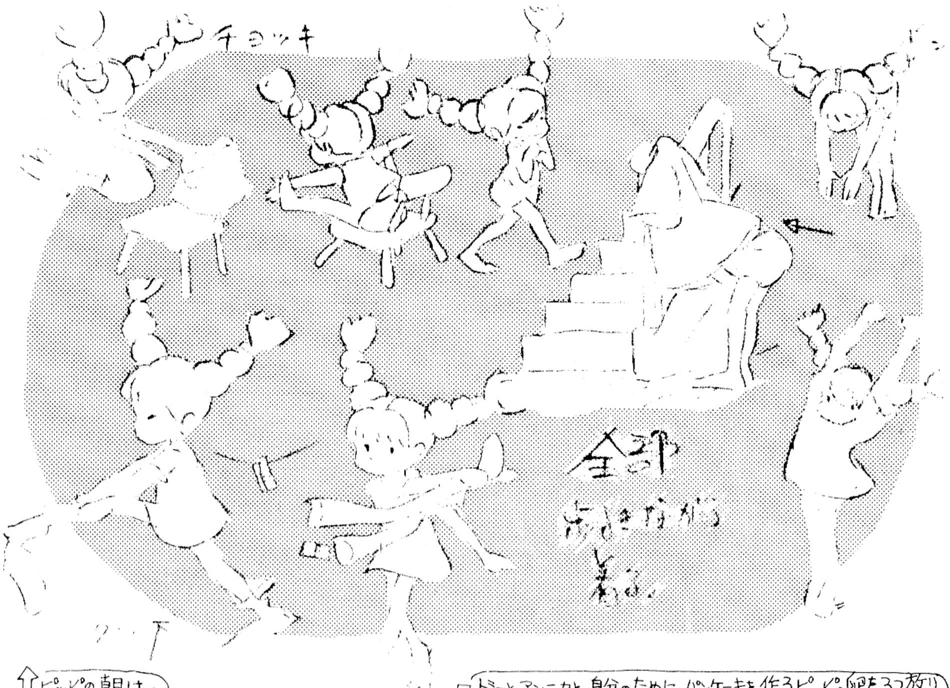
PiPPiの下船



⇨トミー（左）とアンニカは、ピッピの隣人で一番の仲良し♥

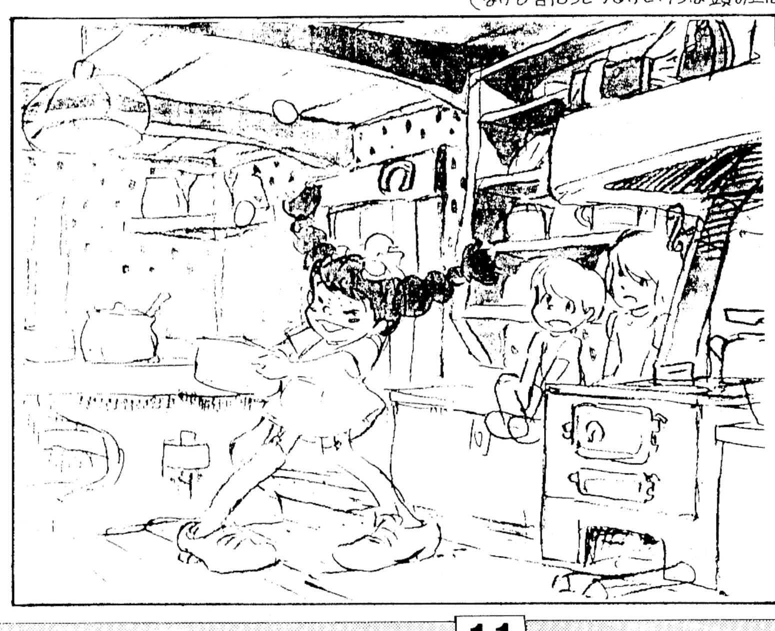
〈世界一強い女の子**ピッピ**登場!!〉

港に船が着きました。別れを惜しむ船員のみんなとさよならして、ピッピは"ゴタゴタ荘"のある、スウェーデンの小さな町におり立ちました。ピッピのお母さんは天国にいて、船長のお父さんは目下行方不明。でもピッピは信じているんです。"お父さんはきっと、南の黒人島の王様になってるわ！"
金貨一杯のスーツケースを下げ、おサルのニルソン氏と元気一杯のピッピ。その姿を珍しそうに見ているのは、トミーとアンニカ。
「見て、ニンジンみたいな髪の色の女の子がおりてくるわ。まあ、後向き！」
（原作では、3人の出会いは、もっと後です。）



⇧ピッピの朝は…

⇩トミーとアンニカと、自分のために、パンケーキを作るピッピ。卵を3つ放りなげて割ろうとするけど、1つは頭の上に落ちてしまって…



―ピッピがどうして、"世界一強い女の子"かって？それはピッピが大変な力持ちだからってことと、何も恐れない心、そして誰にも負けない優しい心を持っているってことから。

その上、素敵なことに、ピッピはお料理が上手だし、それからいろんな遊びをすぐ考えついてしまうのです。

大人から見れば"お行儀の悪い子"だけれど、トミーやアンニカ、そして他の多くの子供達にとっては、ピッピこそ、友達になりたい子、一緒に冒険をしたい子なのです。

⇦ピッピの"ゴタゴタ荘"の台所

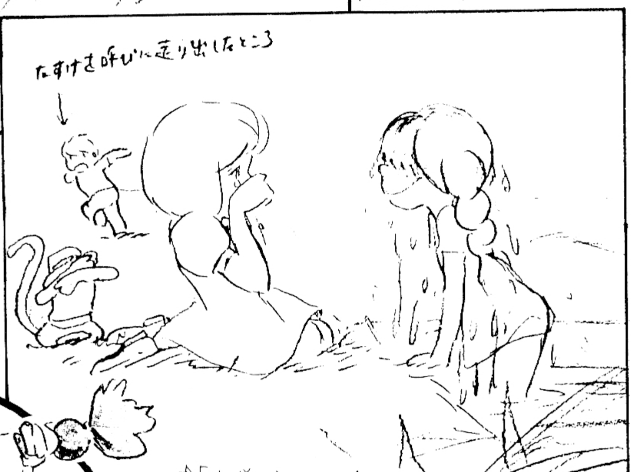


⇨ブクブク… ピッピは沈んだままで…

〈ピッピとトミーとアンニカ
ピクニックの一日〉

学校が大そうじでお休みになったある日、トミーとアンニカは、さっそくお隣のゴタゴタ荘へ出かけていきます。

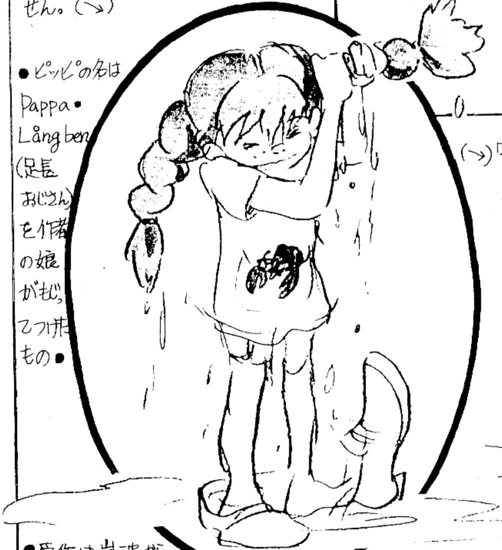
その日はとてもいい天気だったのでやがて3人は森へピクニックへ出かけることを思いつきます。ピッピの馬に乗って、トミーとアンニカとピッピ、そしておサルのニルソン氏は、いい気分です。



⇨「ご気嫌よう！アンニカ！」

なだらかな丘で休んでいると、急にピッピのお腹の上にカエルが飛びあがってきました。
「それなら、私も！」とピッピは、カエルと一緒に池（湖？）にカエル飛(ジャ)び込み！……ところがピッピは沈んだまま、なかなか浮きあがってきません。（→）

●ピッピの名は
Pappa・
Långben
(足長
おじさん)
を作者
の娘
がもじっ
てつけた
もの●



（→）「たいへんよ！ピッピが溺れちゃう!!」トミーはあわてて人を呼びに走り、アンニカは思わず泣き出してしまいました。（それぱかりか、ほら、ニルソン氏も悲しんでいます。）
——ところが、ところが、これまたピッピ一流のいたずらでした。
「どうしたの？アンニカの泣き虫。私は水の中でも息ができるのよ。カエルとおしゃべりしてて つい遅くなっちゃったわ。」
（——と、多分言ったに違いありません！）
それにしても、ピッピったらトミーやアンニカ、そしてニルソン氏まで心配させるなんてねぇ！
—で、このエピソード、（ピクニックの場面は原作にもあるのですが、）アニメ化に当って創作されたものらしいので、ちょっと掲げてみました。

⇨ピッピのポケットには、ザリガニが…

●原作は岩波から。
全3巻で●

⇨ピッピ、いじめっこ達を相手にする。



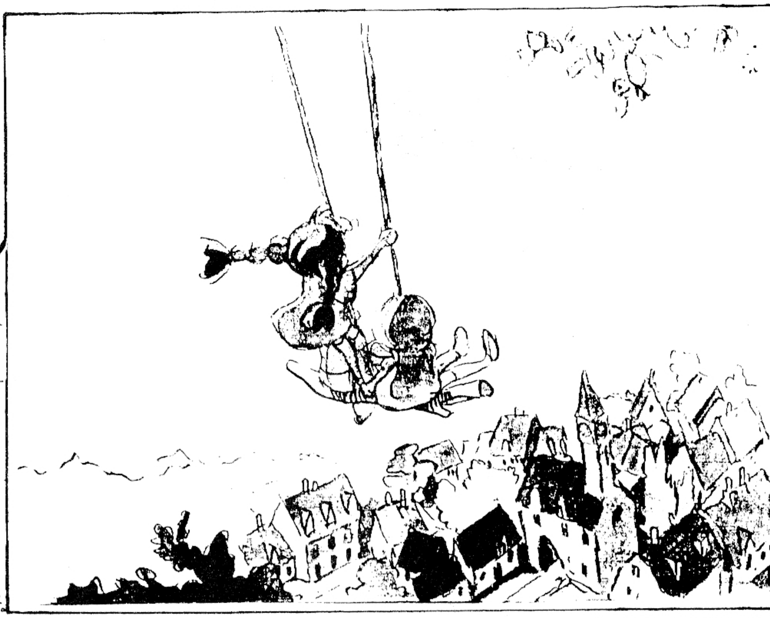
一今、手元にあるピッピの資料の中で、1つの完結したストーリーを追って細かく描かれている連続ボードが一綴(約70枚)ありまして、そのさわりの部分がP.10~12です。この後、お話は⇨や、P.14上の絵のエピソードなどが続く訳ですが、とても載せきれないので、一応このへんで。

その代りと言っては何ですが、この他にかなりある、所謂"イメージ"ボードのうちから数葉御紹介させて載きます。



⇨大きなケーキを3人でガブリッ!さすがにピッピは豪快。
（何かのエピソードのイメージボード）

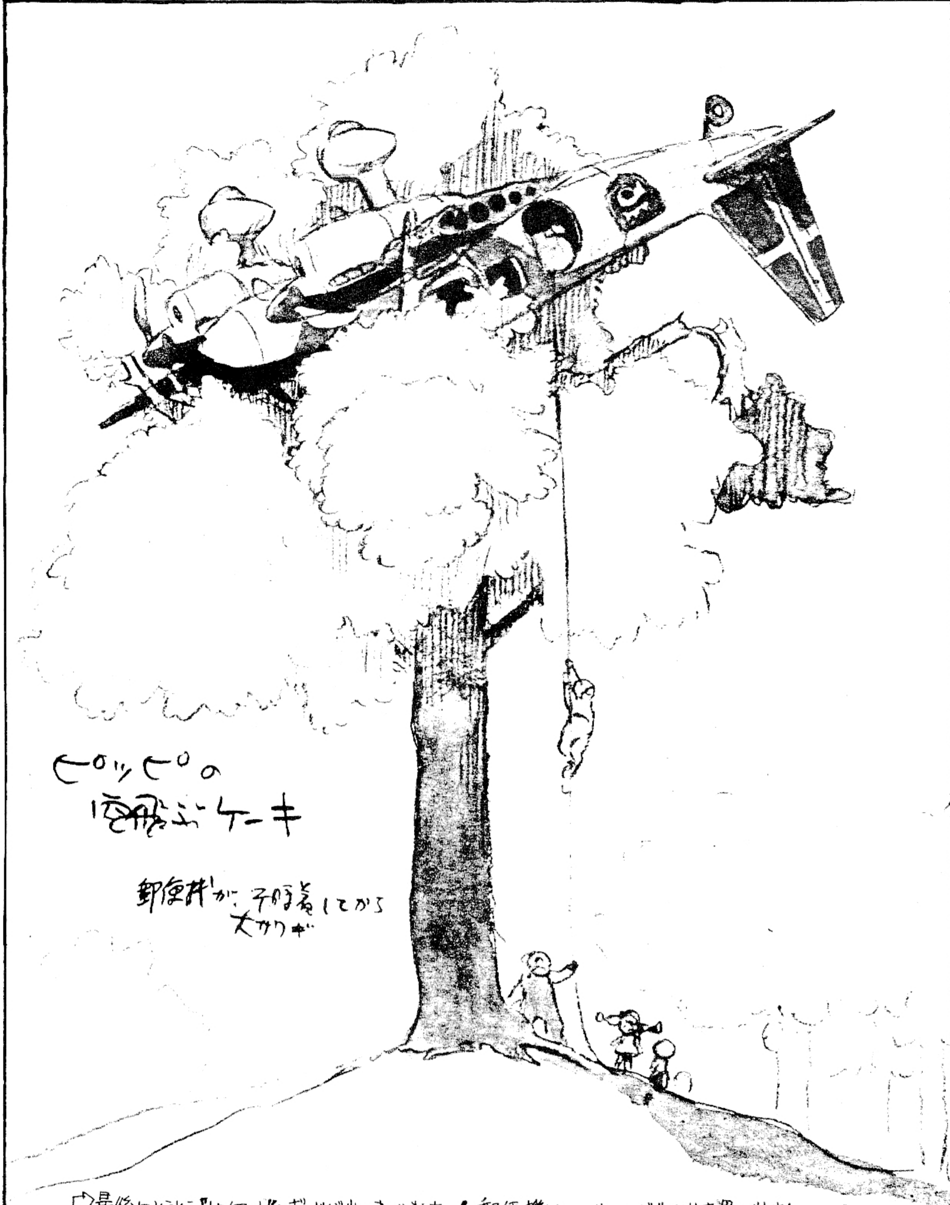
⇨「ほうら、見て！こんなに空に近いわ！」
足下に広がる美しい町並。そのむこうには北欧の薄い光に輝く海が…。



⇩みんなで歌いましょう！
（何の歌かなぁ…）

真中の優しげな御夫人は、トミーとアンニカのお母様のセッテルグレーン夫人？…とすると、指揮をしている人は…このおじ様はこのコーナー冒頭のボードにも出てて、（クラシカルな車を運転なさったりもするようです。）気になるネ。





⇨最後にとうとう"如何にも"のボードが出てまいりました！ 郵便機かぁ… サン=テグジュペリを思い出すなぁ。

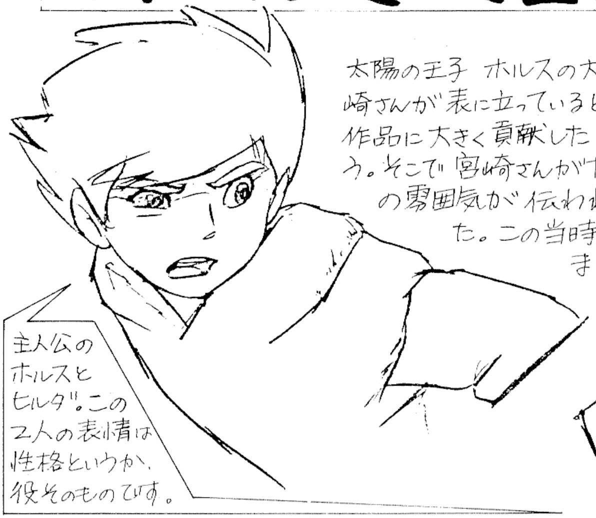
—という訳で、そろそろピッピのコーナーもおしまい。数々のボードを見ていると、この作品が幻と消えたことが、つくづくと残念でなりません。—ところで最後に、ピッピの本名をお教えして、莫大な資料からこの12葉を選ぶのに気が狂いそうになった、コーナー担当者のおしゃべりを終らせて載きます。"ピピロッタ・タベルシナジナ・カーテンアケタ・ヤマノハッカ・エフライム／ムスメ・ナガクツシタ"

●THE END●

太陽の王子

「ホルスの大冒険」

★宮崎駿さんは場面設定・原画を担当。
（昭和43年作品）



太陽の王子 ホルスの大冒険という作品はあまり宮崎さんが表に立っているとは言えませんが、氏がこの作品に大きく貢献したということはご承知のこととしょう。そこで宮崎さんがたずさわったこの作品の制作等の雰囲気が伝われればと思い、取り上げてみました。この当時、東映動画は紛争中でありました。このホルスも上層部とのいざこざがあり、

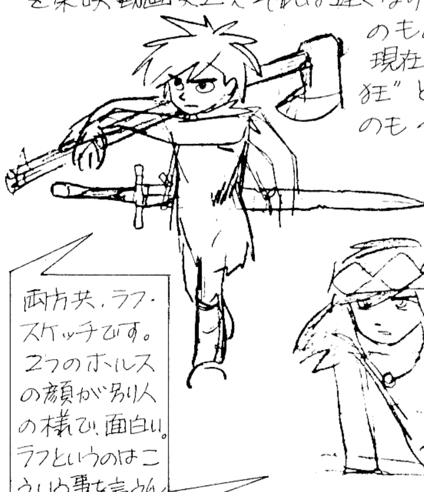
主人公のホルスとヒルダ。この二人の表情は性格というか、役そのものです。



かなり方針などでもめた為、一時はオクラ入り、という話もあったそうですが ようやく3年もの時機を経て出来上がったのです。

又、その当時のスタッフの方々の熱気がこの作品を東映動画史上（それは遅くなりましたが）不滅のものとしたのです。

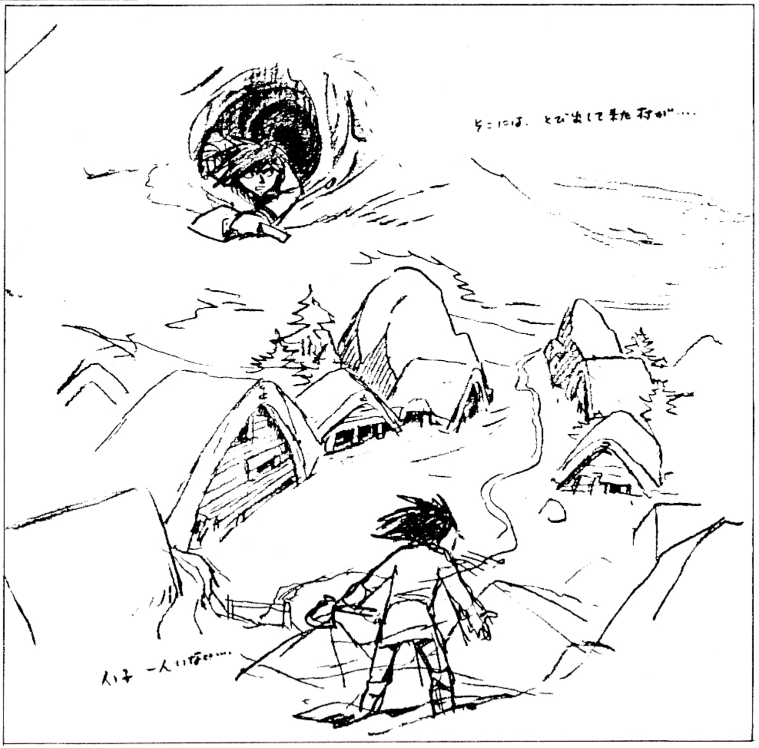
現在"ホルス狂""ヒルダ狂"と呼ばれる人々がいるというのもうなづけます。



両方共、ラフ・スケッチです。2つのホルスの顔が別人の様で、面白い。ラフというのはこういう事を言うんですね。

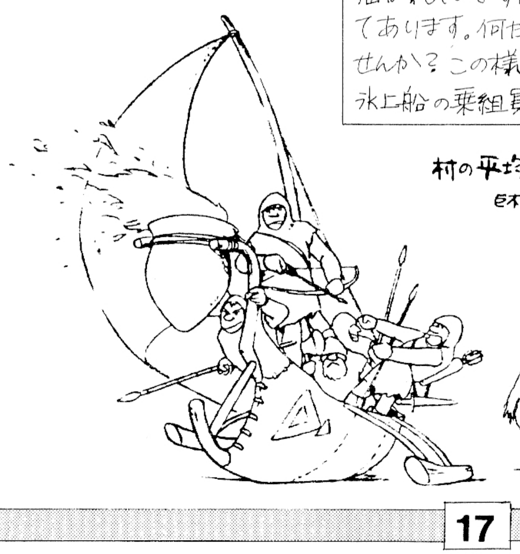


ホルスを観た人はわかるでしょうが、この場面は実際にはありませんでした。
さて、どこに入る予定だったのかな、と思うにもしかしたら"迷いの森"を出てきたところではないでしょうか。
上の文
「そこにはとびだして来た村が…」
下の文
「人っ子一人いない…」
さて、一体、何のシーンだったのでしょうねぇ?!

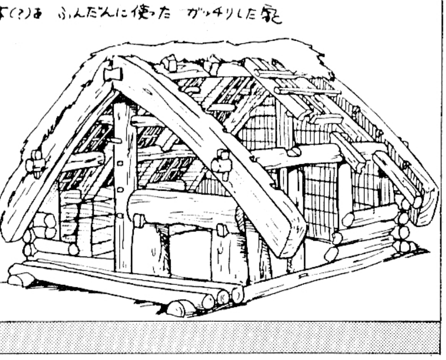


氷上船

氷上船と家屋の木組の図です。どちらも別々に描かれていますが、どちらも細かくわかりやすく描いてあります。何だかスタッフの意気込みが感じられませんか?この様な設定がまだまだあるのです。氷上船の乗組員まで生き生きとしていますね、さすが!



村の平均的家屋の木組
巨木(?)をふんだんに使ったガッチリした家



これらの絵の中で
唯一つ何かわから
ない絵。誰だろう?



これはラフ・スケッチです。顔だけ見るとヒルダかホルスかわからないのですが多分ヒルダでしょう。上図はホルスのラフです。りりしい!

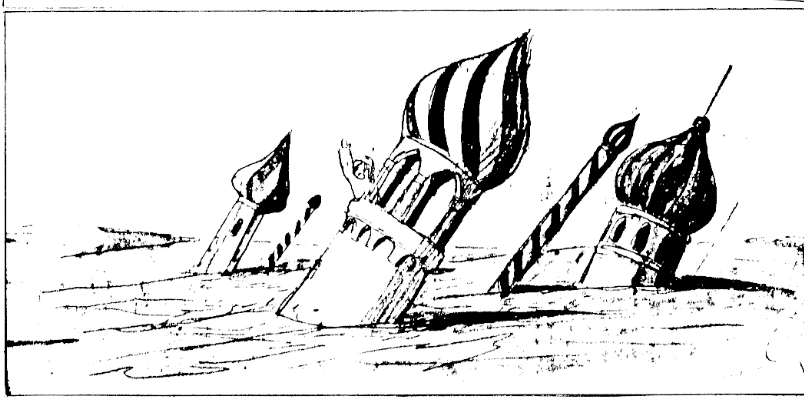
悪魔グルンワルドとその部下の図。銀狼から雪狼、怪魚、氷象、そしてヒルダまでがいる。ヒルダの顔が何となく哀しい様な…。





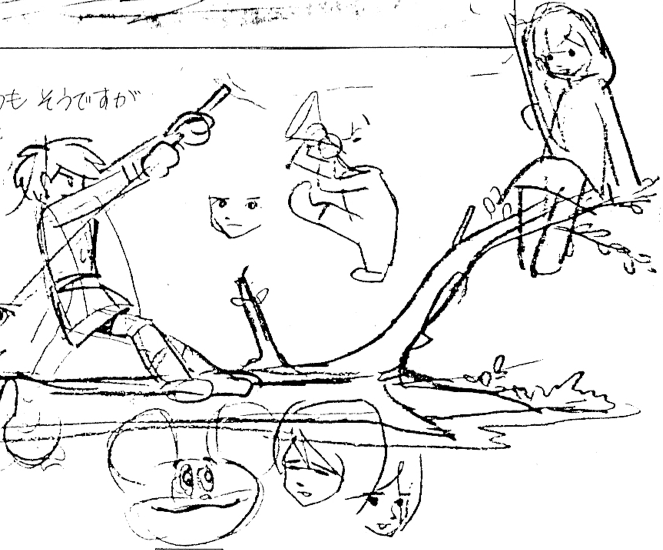
それにしても ホルスという作品にわずかの
ジョーク、笑いの場面が含まれていない事
には驚かされます。普通 長編には(短
編でももちろんですが) 息ぬきが必ず
あるものです。

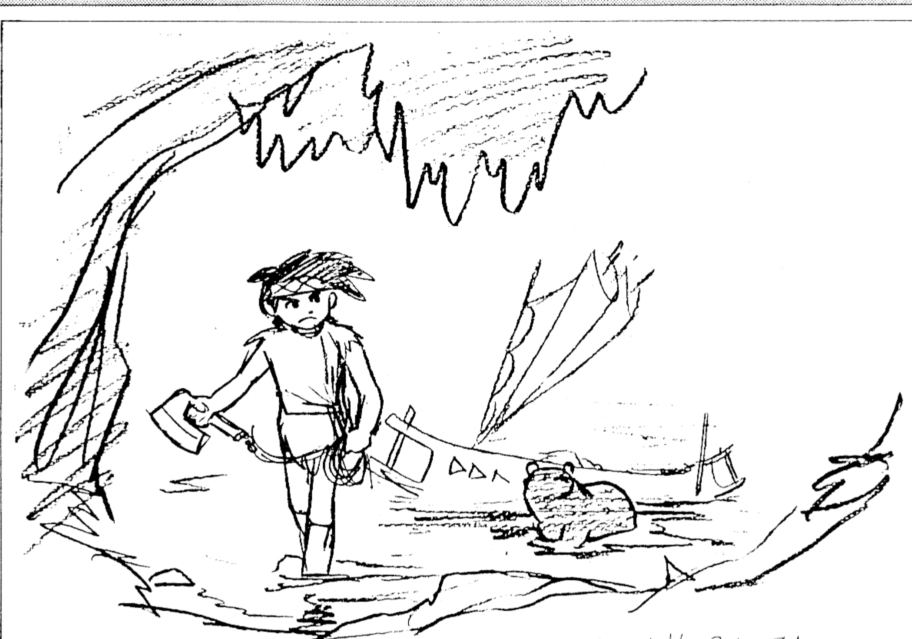
ところが、このホルスには まったくない。
そのかわり、スタッフの熱気が伝わって
きます。"子供だけでなく青年にも見て
もらおう"という気持ちが作品には
表れているといっても 過言ではないと
思うのです。



上図はラフスケッチの一部です。(ホルスが村を追いだされる所) 下はイメージボード。塔にいるのはヒルダではないでしょうか。

宮崎さんの作品は、いつも そうですが
(このホルスも例外ではないと
思います) ラフ・スケッチがとて
も楽しくて 出来上がった作品
とは別に大変興味をそそり
ます。(例えば 某雑
誌に載ったホルスの
いたずら書きとか…)
右のラフもホルスと
ヒルダの他にラッパ
を吹いている子供と
か ネズミ(なのかな?)
とかがとっても
可愛い!





★コロと旅するホルス★

キャラ表より。

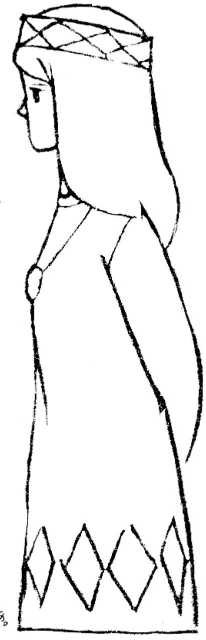


ヒルダが人間と悪魔の堺で苦しむ場面がある。草原でマウニと花輪を編んでいる時の悪魔であるトトと人間の味方であるチロの争いはそのままヒルダの心の葛藤に他ならない。ヒルダはいつでもこの気持ちに惑いを感じながら生きている。その為に、ヒルダは心から笑うことができないのだ、と思う。

(当り前かしら…)

ヒルヒルヒルル
　　リリリルル
高い梢の細い小枝に
歌をうたう　いつも1人
　　いつも1人
ヒルヒルヒルル
　　リリリルル…

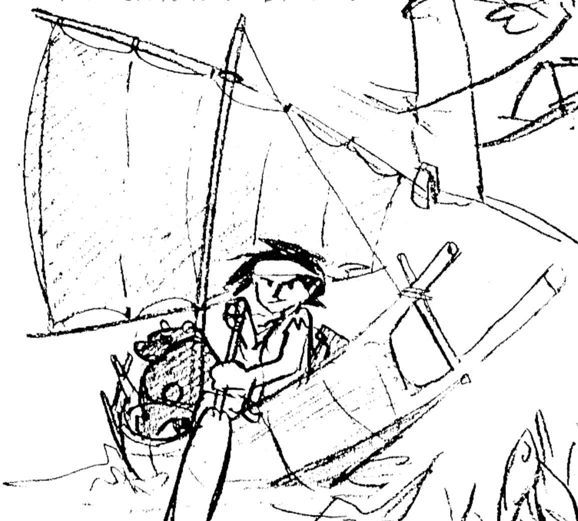
これはヒルダの歌です。
ちなみに増田瞳美さんと
いう方の歌でした。でも、
ちょっとこもっているような気がするなぁ。



宮崎さんはこの作品は基礎です，というような事をおっしゃっていた様な気がしますが，まさにその通り！と思う。

ホルスとヒルダは後のコナンとラナの関係に（キャラの性格と言うのでなく）





とても似ている部分があるしホルスとおとうさんとの別れのシーンはコナンのそれと同じだし。

コナンだけでなくとも やはりこの作品が土台になっている，と言えるのではないかしら。

上・中・下ともラフ・スケッチだと思う。上のホルスとおじいさんの料理してるとこかな？ホルスがかわいい！左のコロの目つきが悪いと思うのは私だけかな……？！

やっぱり，この真面目な映画を救ってるのは動物の可愛いらしさとラストのモーグに向かって走っていく場面（それは同時にヒルダが人間として仲間に迎えられることを意味しているから）ではないでしょうか？

この作品を作ったスタッフも長ぐつをはいた猫では反動というかとても楽しい映画を作っています。やっぱり見て楽しめる映画がいいな，と思うのは根が不真面目なのかしらね。ペロ大好き！

（うーん，不真面目だ…）



おしまい

カリオストロの城

演出・監督
(1979年製作)

──この作品については、今さら何も書く事が無いんだよね。書こうと思えば宮さんの演出論も書けるけど、それには頁が足りないし、中途半端は良くないし…。それでこの際、宮さんから少し離れて「カリ城」のキャラクターにスポットライトを当ててみることにしましょう。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

このコーナーの資料は、今世間に出回っている「カリ城」のキャラ表の**準備稿**です。(似ているようだが、決定稿とは微妙に違うんですよ、よく見てね。) おそらく大塚さんが「カリ城」用に初めて書いたキャラ表だと思います。・・・そういう意味からすると、ちょっと珍品でしょう!? (そうでもないか…)



希代の天才的大泥棒 「ルパン三世」



★はしっこの落書きより★



▶大塚さん自身、違いすぎると思われているようですね。
(この女性は…テレコムの方かな?)

キャラ準備稿について

このキャラ準備稿は、ルパン、次元、五ェ門、銭形と、メカで構成されています。不二子や、ゲストキャラは、この時点ではまだ具体的な決定はなされていないので、載ってません。一しかし、FIAT500やシトロエン2CVといった車は、既に決っていたのか、描かれています。ただし、プレートナンバーは未定となっています。

一ところで、このルパン、線が決定稿よりも漫画的で、どれも丸々としています。

表情も、決定稿に無いものもあったりしますが、もう旧ルパンの面影は無く宮さんルパンになってしまっています。一というより、やはり「コナン」の影響で、かわいい表情をしています。

・・・・それにしても、この顔で中年男の哀愁は表現できませんよ、宮崎さん！



このニつは、決定稿にもありません。しかし、実際出来上った映画に、一番近い顔をしています。



大藤賞、獲得

ところで、「カリ城」が大藤賞を受賞したことは、広く知られていることですが、最後に賞を争ったのが〈あの〉バルナの国際フェスで大賞をとった、川本喜八郎さんの「火宅」だったのは、案外御存知ない方も多いかと思います。(「火宅」の受賞理由は"完璧"ということでした。)それに対して「カリ城」は、娯楽作品としての意義を評価されての大藤賞の受賞。漫画映画の復権。

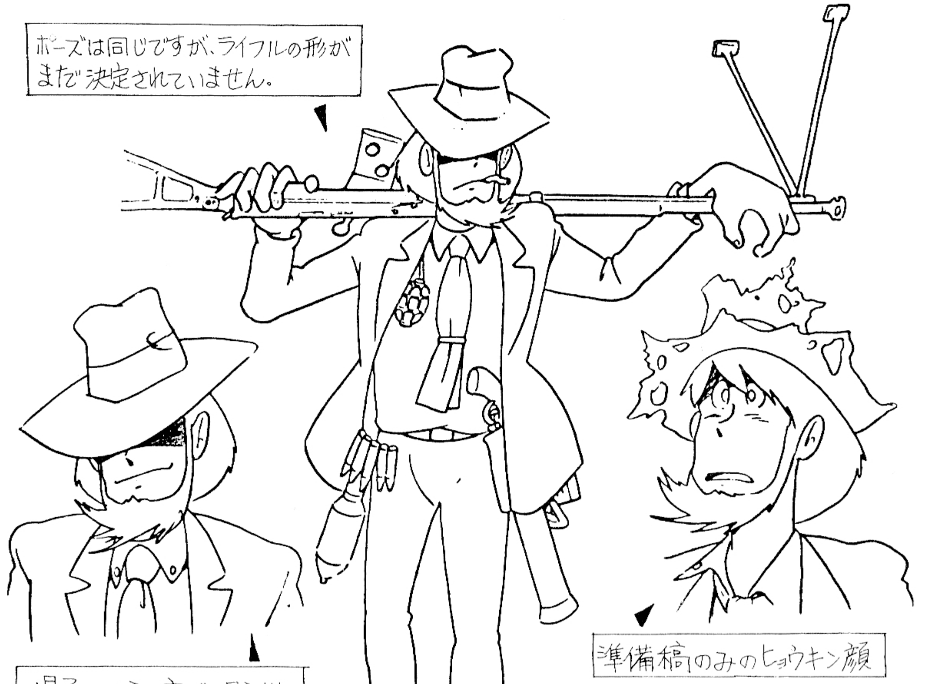




……すっ凄いですねぇ……



これらの表情は、旧作の表情集からのおこしですので、比べてみてはいかが？





次元大介

次元の帽子とオジン顔化現象について

一次元はかなり決定稿と違っています。キャラ表には「次元はこれまでより深く帽子をかぶらせます。帽子を脱いでも目が見えません。特別な時だけ目を描くことにします。」と、指示があるものの、決定稿よりもかぶり方は浅く描かれています。また、決定稿では×印をされている表情も、この準備稿ではOKということで、描かれています。

だけど、どうして次元の帽子をそんなに深くかぶらせる必要があったのでしょうか？おそらく宮さんの指示だと思うのですが、実際、映画を見てもしっくりした答えはみつかりませんでした。完全主義者の宮さんが浅くかぶった帽子の下から目が見えないという矛盾を嫌ったのでしょうか？しかし、これは漫画ですからねぇ。目が見えてた方があのオカマ帽子よりもいいと思うのですが。いかがなものでしょうか……。

このニつは、決定稿では、×印をされている悪い例ですが、準備稿では、ちゃんと使われています。







ところで、帽子の帯の色が旧作とは違うって気がついてた?
——旧作では黒でしたね。



「カリオストロの城」が生まれるまで

「カリ城」が生まれるまでには、さまざまな過程があったらしいです。まず第一に、旧ルパン、そして新ルパン、新ルパンの高視聴率により映画化。「マモーVSルパン」のヒット。封切りから、わずかに三日目でPARTⅡのGoサインが出たそうな。こうしてPARTⅡの製作が決定し、やがてそのスタッフも決定へ。大塚さんが作監をすることは、はじめから決まっていたらしいです。とりあえず、演出が未決定だが脚本が先に出来あがり、(これは新ルパンの脚本家達によるものでしたが、)大塚さんがこれを読んだ訳ですが、イメージとあまりにも違ったので没。(この頃、大塚さん御自身が演出をする予定もあったそうです。実現すれば、「テングリ」以来の…!となるハズでしたね。)——そうしているうちに、宮さんが演出に決定。これが'79年の5月頃。なんとあの大作もわずかに半年で作り上げてしまった訳です。これは記録的はやさ!これも宮さんのなせる技?!——きっとまた、"後方で作戦を練り、指示するだけでは満足できず、最前戦で鉄砲をうっちゃった"のでしょうね。



▶五ェ門は、決定稿と全く同じなのでカットいたしました。ファンのみなさま、ゴメンッ!
(コーナー担当者は生きて帰れないぞおぉ(^~^))

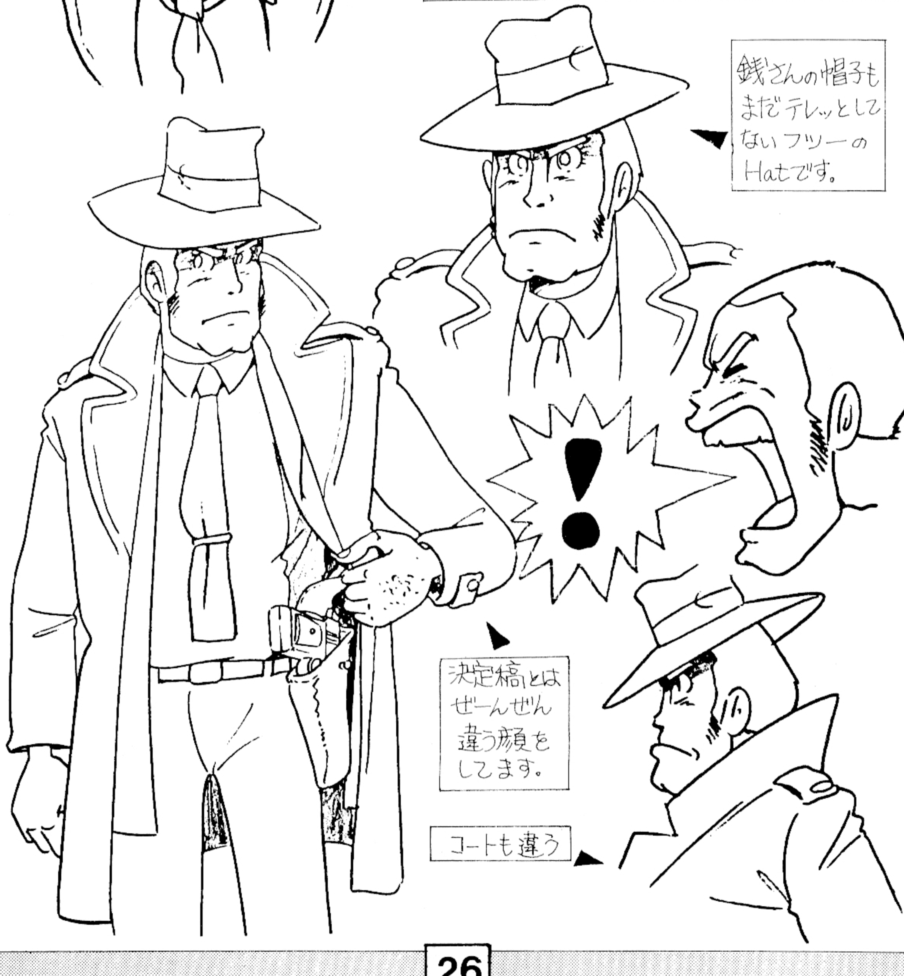
銭形警部



昭和ヒトケタをなめるなぁっ!

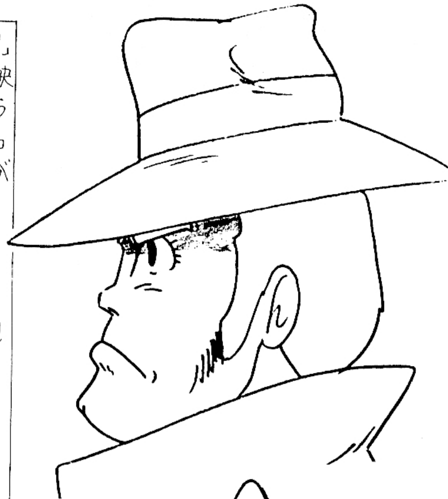
次元以上に変っているのが、この銭形のとっつぁん。埼玉県警という設定はこの頃からありましたが、銭さん自身あそこまでクソマジメという感じはありません。コートもギュッとしめてないし、三枚目の感じが抜けきれていません。

ところで、この準備稿は、量的にいって銭形が一番多くなっています。映画の中で、レギュラーではルパンの次に活躍した重要な役を演じた銭形。という訳で"中年ルパン"と、この銭さんで、"真面目なおじさまパワー"全開といった感じの「カリ城」でしたが、"ああいった気取った役よりも、もっと三枚目で、もっとドタバタと暴れ回って欲しかった"というのは、個人的感想です。



というような訳で宮さんの特集でまたもや「カリ城」が出てきましたが…。東映時代の長編漫画映画の頃から少しづつファンを作り、テレビに移ってからも「アルプスの少女ハイジ」などの名作もので その名を世間に知らしめ、「未来少年コナン」でその人気が一気に爆発しました。「カリ城」は、その次の作品ですから、今日のような評価と喝采を受けるのは当然といえば当然のことですが、公開当時は信じられない程客の入りが悪くて悪くて初日でも50%も入っていない状態がザラだったようです。一週間もたつとホントにパラパラという状態になったのを思い出します。しかし、再三言うように、今ではこの人気。「ルパン八世」なんてものも作られている(今は中止になってるけど)ルパン人気、あの時、「カリ城」がヒットしてくれていたら、第二、第三の「カリ城」が生まれていたのじゃないかと思うと、全く残念です。

-えんど-











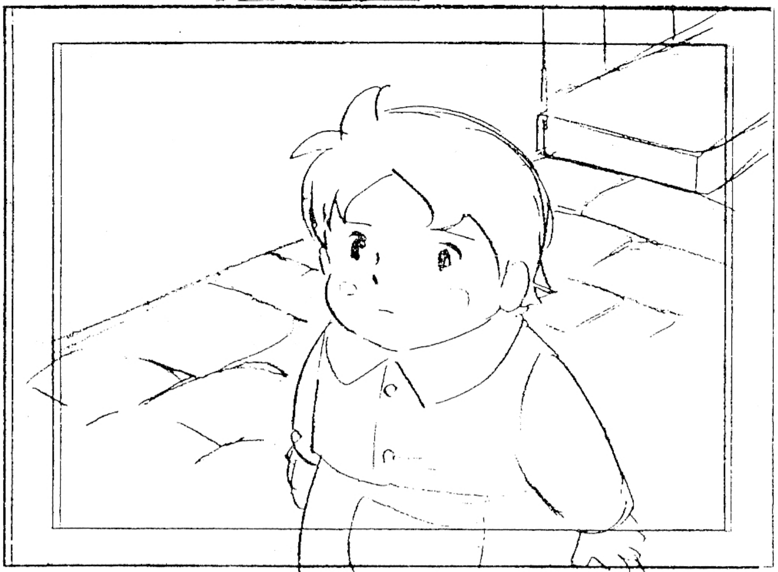
アルプスの少女ハイジ

宮崎氏は、
場面設定・画面構成を担当.
昭和49年1月～12月放映

ヨハンナ・スピリ原作
ズイヨーの一番星
ハイジです。

グリコを食べなくってもたくさん走れるハイジ。
(カルピスのおかげ？)





〈幼い頃のハイジ〉



こんなカオはめったにしません。



ロシアの民俗こけしみたい





✿よい子は顔をあらいましょう





小さいハイジはコロコロしててとってもかわいかった。
でも山に着いてからどんどん服を脱ぎはじめた時は意外でした。
(あの服の下はすぐお肉だと思ってた)
何枚脱いだか数えた人はいるでしょうか？



実はこれがクララです。元気で活発そうで、ちょっといじわるそうなカンジです。病人とはとても思えない!

←左のは旧ルパンの"牧田リエ"



右のは"魔法のマコちゃん"風なのです。→

洋服も実際に使われたものとは違っています。

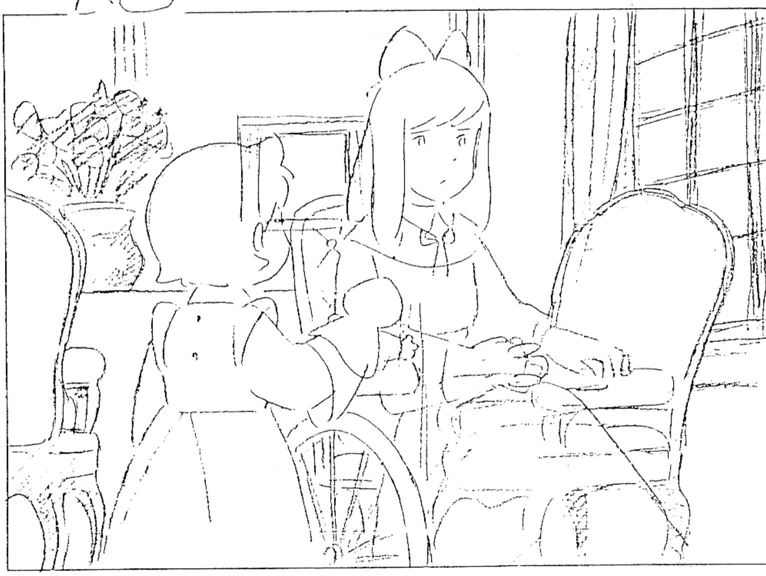
それにしても、お嫁さんゴッコをしたときのクララのかわいかったこと!! ハイジがアルプスの少女なら、クララはさしずめアルプスの天使なのです。



↑ぶりっ子してるクララ



↙これは、しょいこの設定に出ていたもの。ペーターはコナンに似てる所があるな。



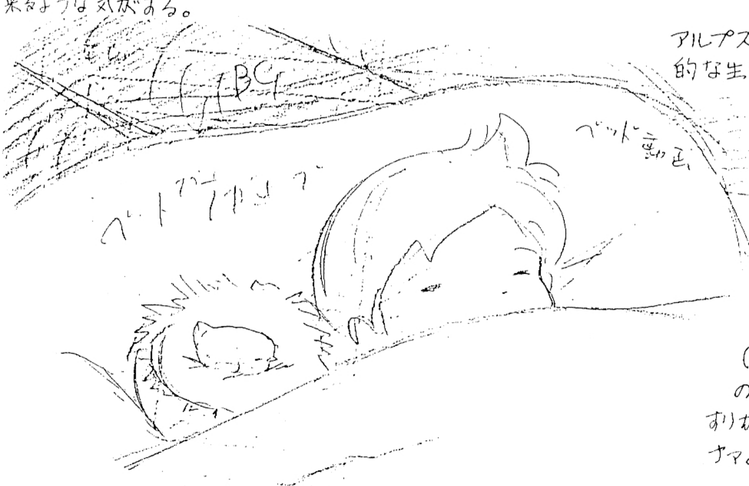
クララのかわいらしさは、ハイジのかわいらしさとはちょっと違っていて、やっぱり都会のお嬢さんタイプです。ハイジのちからを借りてしっかり病気を克服したクララはエライっ!
そういうクララにあやかって、クララのクラはクラリスのクラ、残りのラの字はラナちゃんのラ、になったのかも?!



アルムおんじの山小屋は、本当にステキです。木製の家具、木製の食器、チーズ作りの道具なんかもみんな素朴でとってもいい。無造作に黒パンが棚の上においてあったりすると、もう泣けてきます。
それからハイジの屋根裏部屋。あのほし草たっぷりのベッドに一度でいいから寝てみたいと思いませんでしたか？ とろけるチーズとヤギ乳もおいしそーだった！ ズズ……
（余談ですが、蓼科高原に"ハイジ"というペンションがあります。その中にあるレストランの名前が何と"クララ"というんです。ブルーベリーガムのCMの舞台にもなってます。）



モミの木の描写はとってもシリアスで神秘的だったのだけれど、もしあれを全部クリスマスツリーみたいに飾ったら、きっとこの小屋はディスコチックになってしまうでしょうね。
（お客はヤギしかいなくて"メェ〜リ〜クリスマス"なんて！）でも、こんな所だったら、本当にサンタクロースが来るような気がする。

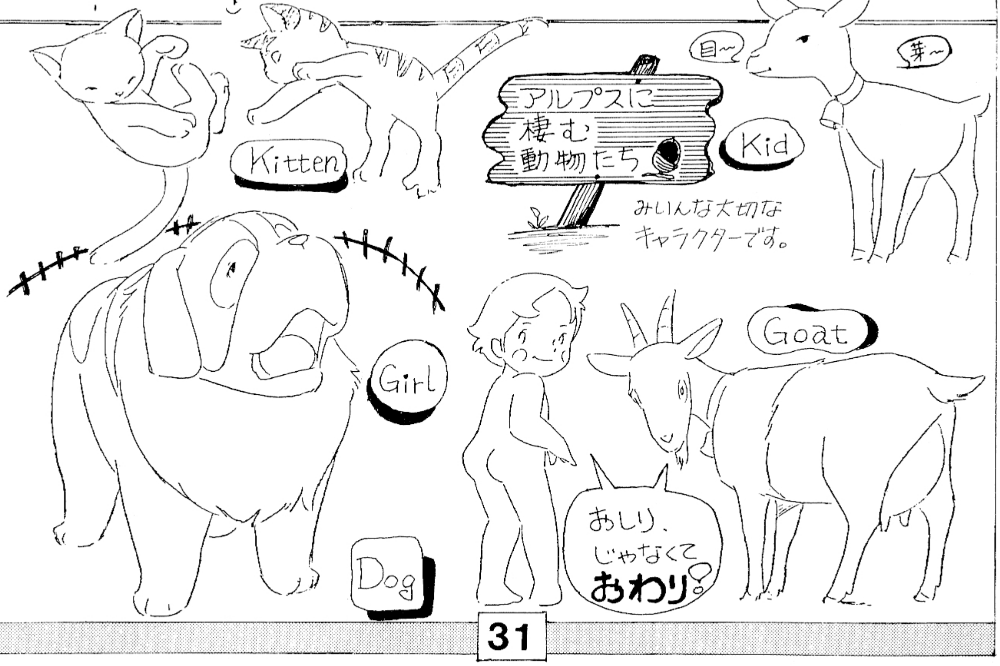


アルプスの大自然の中で理想的な生活をするハイジがうらやましい。このしあわせそのものの寝顔はだてじゃないんですよね。それにしても、おとなりでやっぱりいいカオして眠ってるぴっちちゃん、いったいどんな夢を見てるんでしょう。
（夜中にこっそりひよこのお菓子とぴっちちゃんをすりかえて、さらっていきたいナァ。）

ハイジ キャラクター比例表

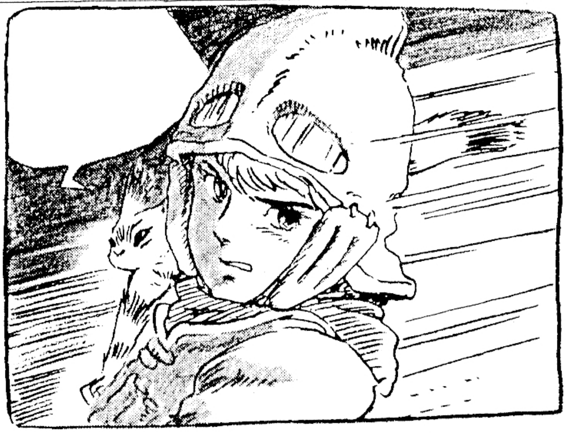


デーテ
バルベル
おばあさん
ブリギッテ
ペーター
山羊
アルムじいさん
ゆき
幼い頃
ハイジ
クララ
おばあさま
ヨーゼフ（セントバーナード）
ゼーゼマン
セバスチャン
ロッテンマイヤー
ヨハン
チネッテ



風の谷のナウシカ

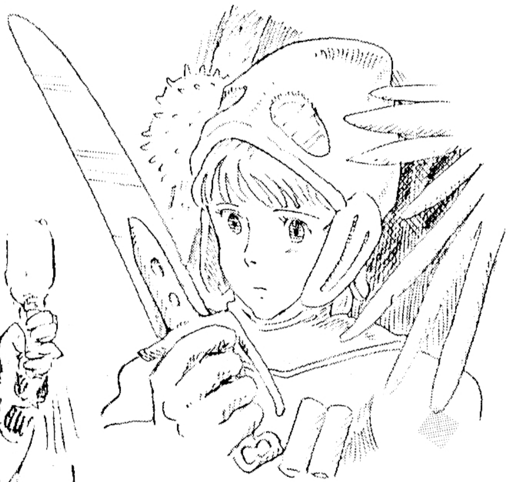
S.57年〜
アニメージュ連載中



巨大産業社会の果てに崩壊した文明の跡地上は有毒の瘴気を発する腐海に覆われた。その中でわずかに残された辺境の地の小王国風の谷に暮らす長の娘ナウシカ。世が世なら幸福なお姫様としていられたはずであったが…………。

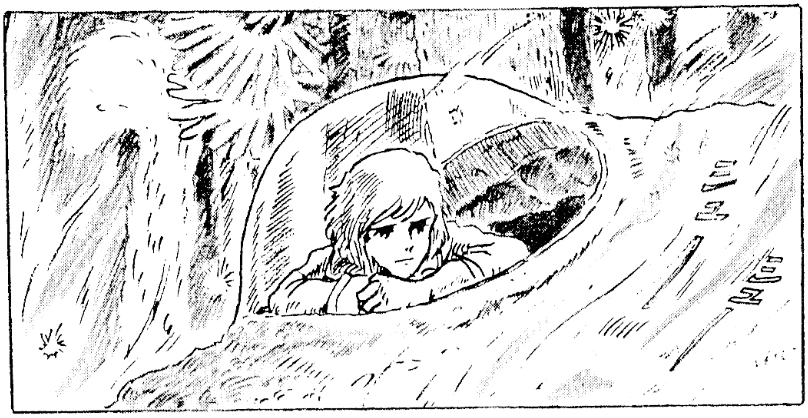
▲時に見せるナウシカの内に秘めたはげしさは、痛々しいほどである。



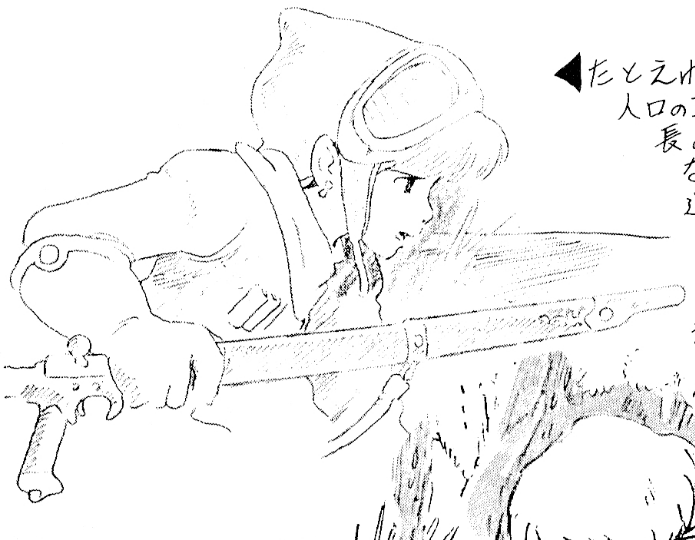


▲いかつい武器はこんな表情ではやはり重荷に感じられる。

◀城の基部で武器やよろい等をこわごわとのぞくナウシカ。やがてこれらを身につけて戦う時が来ることを感じて……？

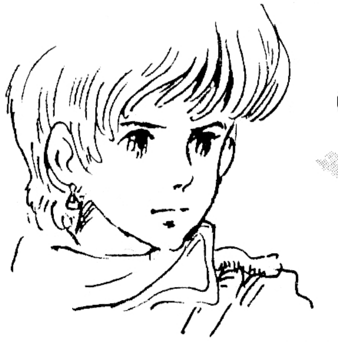


◀王蟲の抜け殻の中で――。



◀たとえわずか500人の人口の王国であっても、長の娘として戦わなければならぬ運命―。並たいていの気力だけではやっていけない。やはり彼女は悲劇のお姫様？

▼戦の為に切ってしまった髪





▲戦のあいま(?)テトとのひととき――。

宮崎さんの未発表作品

1980〜
企画のみ、未発表作品

RICHARD CORBEN'S
ROWLF
「ロールフ」

▲企画書の表題
リチャード・コーベン作(米)

◎領主の娘ヤラの飼犬ロールフが魔法によって半獣半人となりさらわれた彼女を助けだす事によって人間として成長していく…という話。



▶ヤラと犬のロールフ



▶領主(つまりヤラの父?・)に拾われた子犬のロールフ



▶戦う人間(?)のロールフ

◉侵入してきたデモン軍にさらわれたヤラ。ここからナウシカが生まれたと思われる。"田舎の健康な娘の魅力"を持っているという。





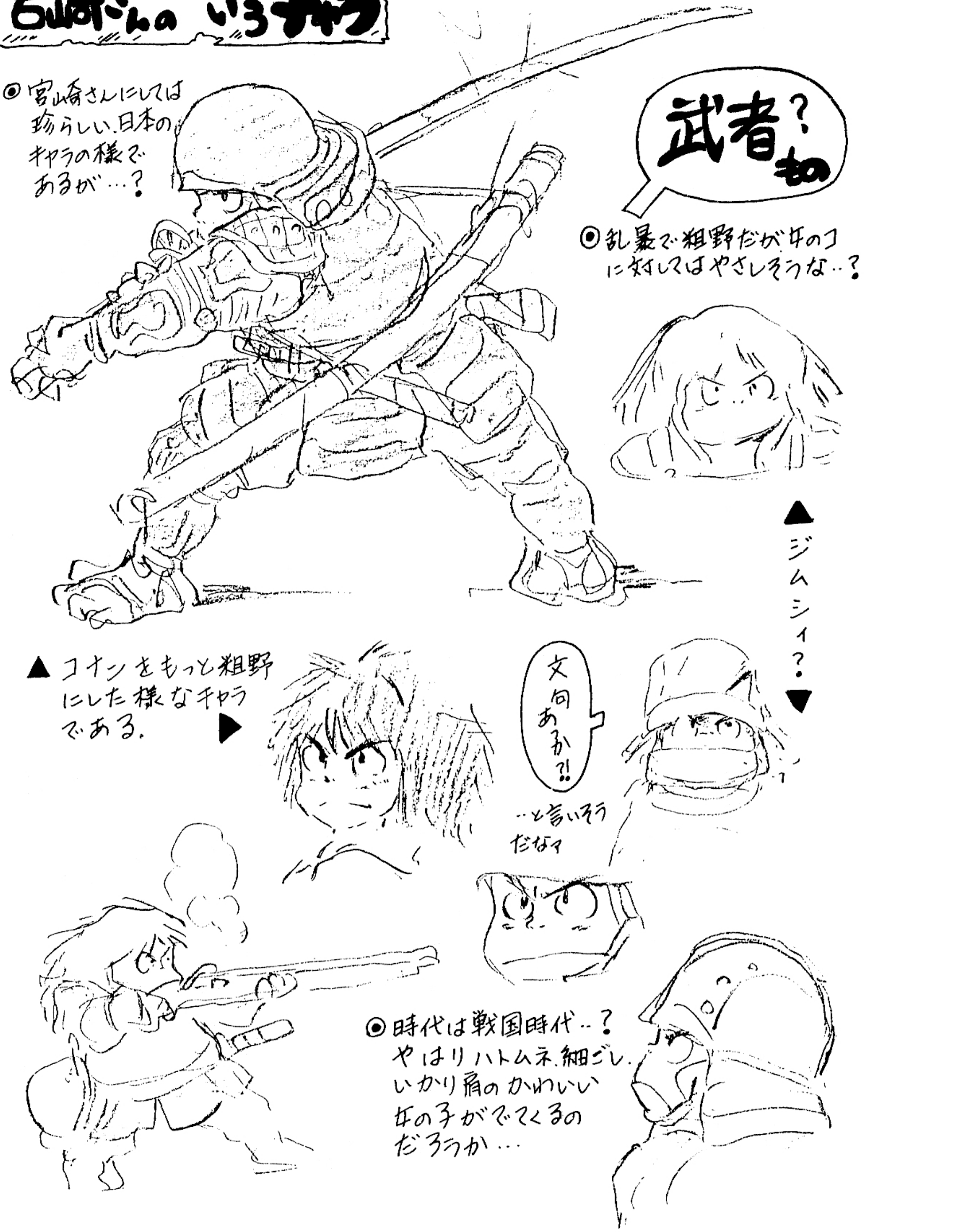
◀いわゆるお姫様タイプというより勇しく男の子っぽいじゃじゃうま娘の様である。

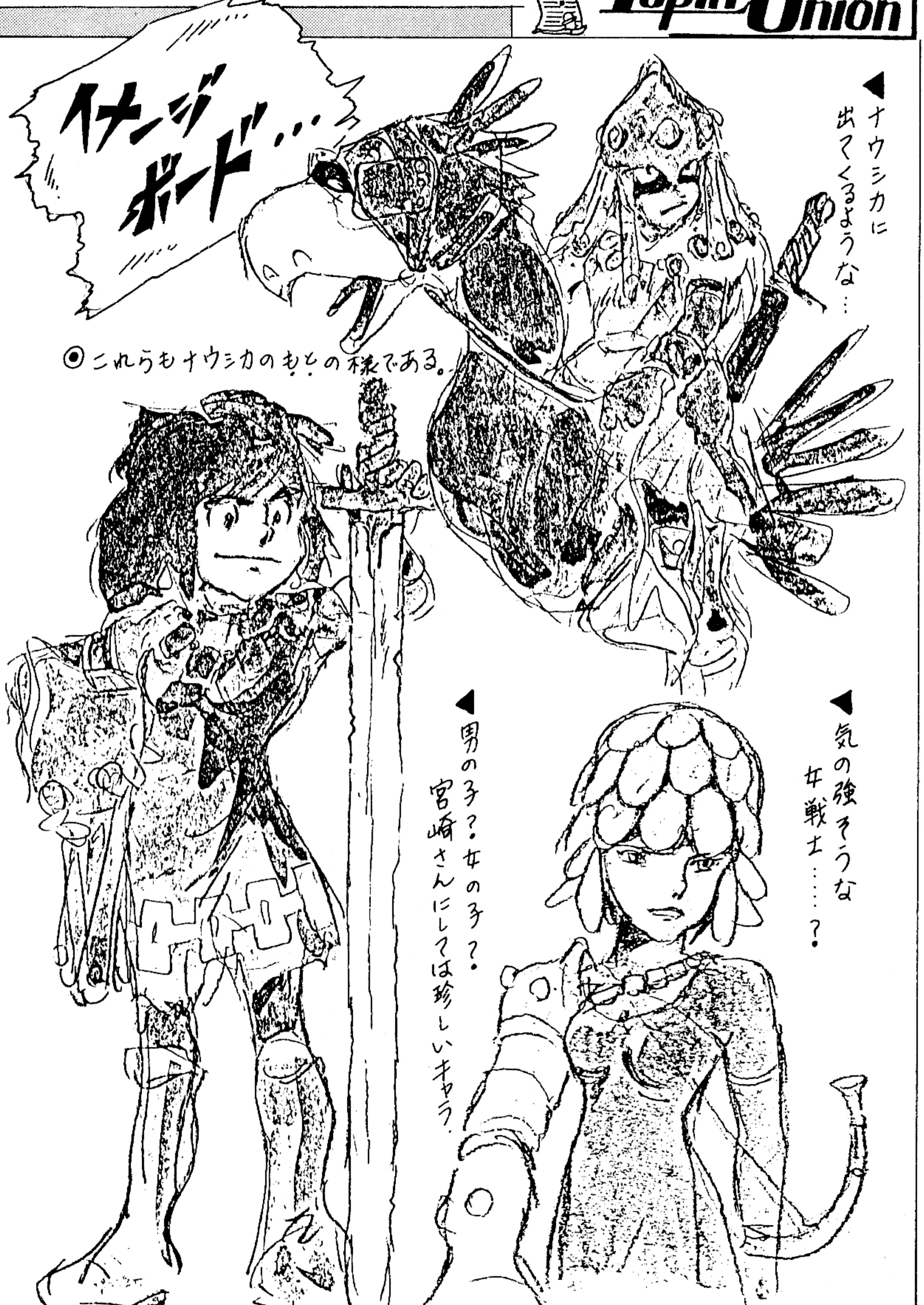




▲犬のロールフと乗っているのはガンシップ？

宮崎さんのいろいろキャラ




イメージボード…
◉これらもナウシカのもとの様である。
◀ナウシカに出てくるような…
◀男の子？女の子？宮崎さんにしては珍しいキャラ。
◀気の強そうな女戦士……？

シャーロックホームズ — SHERLOCK・HOLMES

（とりあえず）
キャラクター紹介

★演出
（昭和56年）
公開未定





一推理小説の古典としてあまりにも有名なコナン=ドイル卿の「シャーロック=ホームズ」を、宮崎駿さんが手がけられたのは、周知の事実ですが、日本では未公開。そこで今回は、とりあえず"速報"といった形でキャラクターを紹介したいと思います。







鋭い観察力と明晰な頭脳。プラス若さと行動力…（いうことなし！）

外野

Mr.シャーロック=ホームズ

住所：ロンドン：ベーカー街221番地B

犬のホームズ氏も、なかなかのダンディ。パイプもステキ。



これがないと、ホームズじゃない!!って位の帽子♡





―19世紀、世紀末、世の中が倦怠と憂鬱に満ちていた頃、霧のたれこめるロンドンを、馬車で疾駆したホームズとワトソン。ミステリアスな事件を追って、ホームズの推理が冴える！……と、いうような原作、英国人気質にあふれた香気ある読みものも一度宮崎さんの手にかかれば途端に活力（バイタリティー）一杯のしあわせな漫画映画になってしまう(らしい。)(ラッシュを見た人の言では。)



―しかし、宮崎さんも、ルパンの次がホームズとは… 奇遇(?)と言おうか何と言おうか…。



―機智に富む、犬の青年ホームズの表情は豊かな動きをするようですね。

原作のホームズは、性質を誇張する為か、コカインの常習者なのです。(というのはあまりにも有名な話。)

Dr.ワトソン ―ホームズの良き理解者（パートナー）

…そういえば昔、NHKで「5人と1匹」という少年向けミステリーがあって、犬の名がホームズだったなあ(古い!)

ホームズの宿敵（ライバル）というと、真先にルパンの名を想起する人が多いと思いますが、あれはルブランが自作にホームズを登場させた（確か「奇巌城」だったと思う。）ことから広まったもので、ドイル自身は、ホームズのライバルとしては、モリアーティ教授を創造しています。原作では当然のこととはいえ、かなりシビアな極悪人ですが、御覧の通り宮崎モリアーティはシビアな巨大悪のイメージを背負いつつも一触即発の三枚目の可能性を秘めているようです。





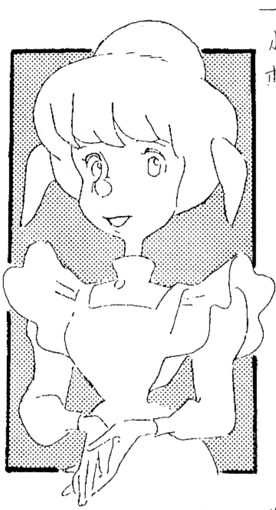
宮崎モリアーティのルーツを、「ハッスルパンチ」のガリガリ博士あたりにもとめるのは…おかしいかなぁ？

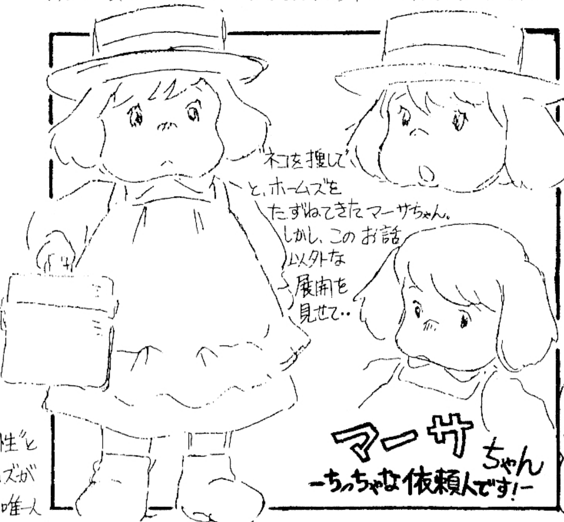




出ました、三悪人（？）!!
それにしても、モリアーティ教授のコスチューム、片眼鏡（モノクル）といい、シルクハットといい、マントといい
うーん… 悪役のイメージって、なぜか たいてい こうなっちゃうみたいだなぁ… （ねっ アルセーヌさん！）

―で、最後に登場願ったのは素敵なお二方。御婦人の方は、19才の未亡人(!!)ハドソン夫人。小さなお嬢さんはマーサちゃん。ハドソン夫人は、ベーカー街で下宿屋を営んでいます。―そこにホームズとワトソンが…。(原作のハドソン夫人はあまり目立たない存在だったと思う。)

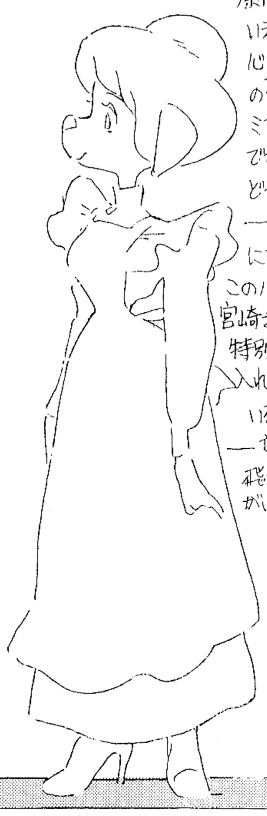


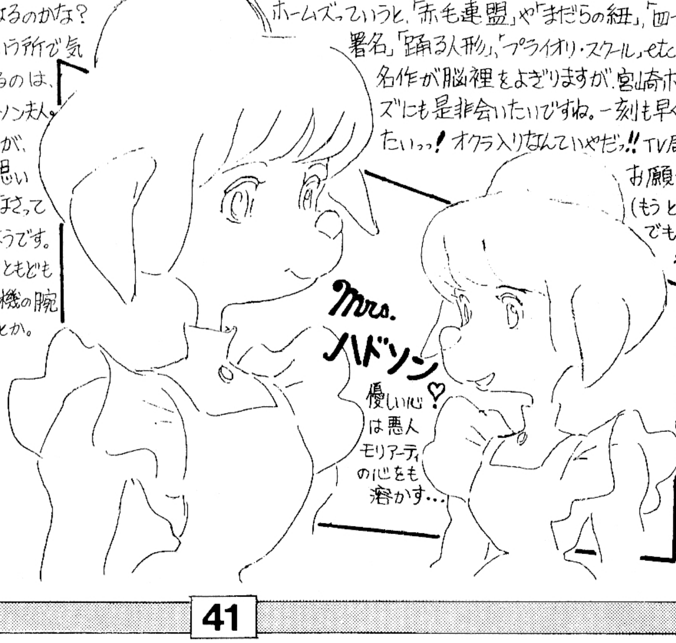


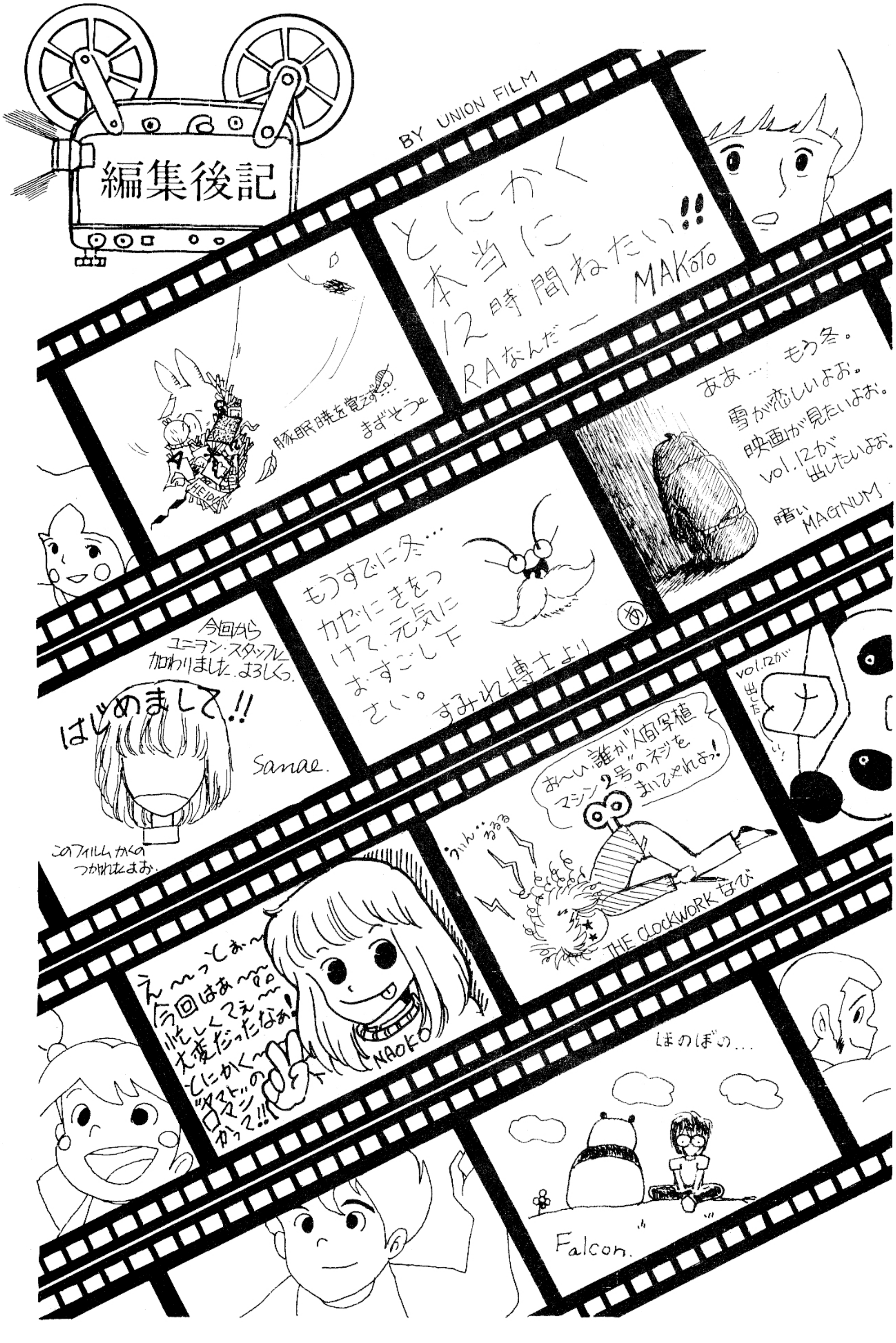
……ところで、あの「バスカヴィルの魔犬」は、どうするの??

原作では"女性"といえばホームズが心を寄せた唯一人の女(ひと)、アイリーネ(「ボヘミアの醜聞」)とくるんですが、宮崎版ではどうなるのかな?
―という所で気になるのは、このハドソン夫人。宮崎さんが、特別の思い入れをなさっているようです。
―亡夫ともども飛行機の腕がいいとか。

―ということで、そろそろホームズの頁もおしまい。本当は、ワトソン博士と、そしてスコットランドヤードのレストレイド警部もきちんと紹介したかったんですが、スペースの都合上、残念ながら…。
ホームズっていうと、「赤毛連盟」や「まだらの紐」、「四つの署名」「踊る人形」、「プライオリ・スクール」etcの名作が脳裡をよぎりますが、宮崎ホームズにも是非会いたいですね。一刻も早く見たいっっ! オクラ入りなんていやだっ!! TV局様お願い!!(もうどこでもいい!!)






編集後記
BY UNION FILM
とにかく本当に12時間ねたい!! MAKOTO
RAなんだー
豚眠暁を覚えず… まずそうっ
HEIDA
ああ…もう冬。
雪が恋しいよお。
映画が見たいよお。
vol.12が出したいよお。
暗い MAGNUM
もうすでに冬…
カゼにきをつけて、元気におすごし下さい。
すみれ博士より
今回から
ユニヲン・スタッフに
加わりました。よろしくっ。
はじめまして!!
Sanae.
このフィルムかくの
つかれたよお。
vol.12が出したい!
おーい誰か"人間写植マシン2号"のネジをまいてくれよっ!
THE CLOCKWORK なび
え〜〜っとお〜
今回はあ〜
忙しくてえ〜〜
大変だったなぁ!
とにかく〜"ヤマト"のロマンかって!!
NAOKO
ほのぼの…
Falcon.

editer's room

ルパン・ユニヲン特製の宮崎駿氏特集号、いかがでしたか。ユニヲンのコック達が、腕によりをかけて作ったこの料理。いろいろなコースがありますが どのコースも必ず御満足いただけると思います。最後は、この裏側の料理をデザートとして、終わりとさせていただきます。
それでは、御賞味ありがとーございました。



…協力…
東京ムービー新社
徳間書店 アニメージュ編集部
宮崎駿氏
(順不同)

以上の方々に厚く感謝し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

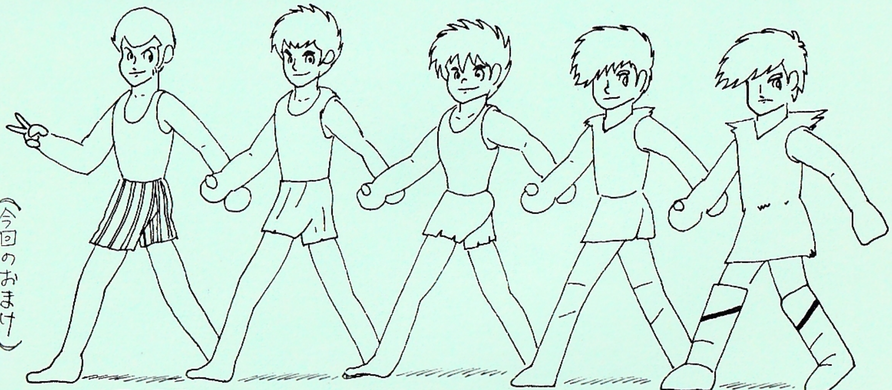
企画
ルパン・ユニヲン

編集・製作スタッフ

新堂真	丸山志げ子
浅沼誠	高橋麻美
西村美樹	大根田淳
山本尚子	鈴木左奈恵

パイレーツ風 早変わり

(今回のおまけ)

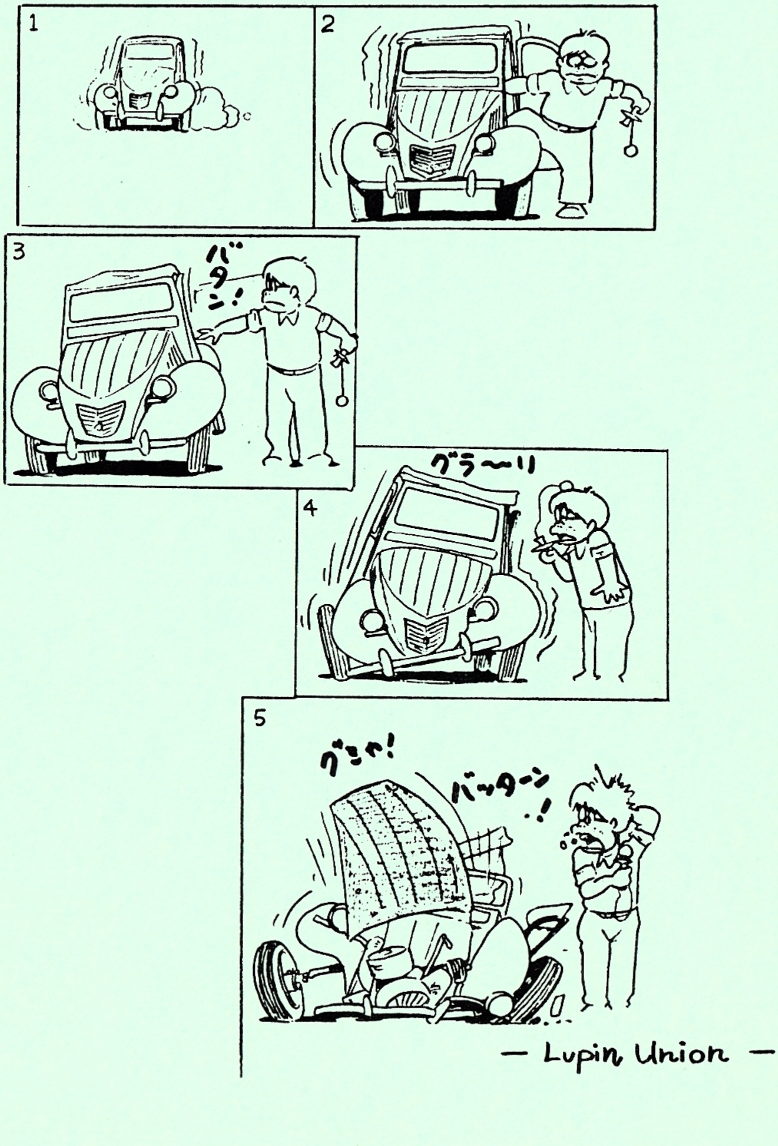


LU

宮崎駿さんがいっぱい! <1982年11月製作> 初版

発行日 1982年12月26日

発行 ルパン・ユニヲン


1
2
3
バタン!
4
グラ〜リ
5
グシャ!
バッターン!
— Lupin Union —